

エルガシェウ・シャフゾド  
タジキスタン出身  
東京外国語大学 総合国際学研究科 修士課程

### 箱根旅行

今年の7月上旬、日本人の友人と箱根に旅行へ行った。彼とは、私が母国タジキスタンにいる頃から付き合いがあり、お互い旅行が趣味の気の知れた間柄である。今回は、二人の時間の都合がうまく合わなかった関係上、遠方とまではいかない箱根への日帰り旅行となった。



旅行当日は早朝に東京を電車で出発し、昼前には箱根湯本に到着した。そこから、火山が見所の大涌谷火山へと向かった。道中、山奥の中をレトロな観光用の小さな電車に揺られながら、自然豊かな風景を心行くまで楽しんだ。

そうして、気づくと目の先には火山がみえるほどの場所へと到着した。独特の匂い(硫黄臭)がこちら側まで漂っており、いよいよ火山に行くのだと妙な緊張感を覚え始めた。大涌谷火山まではロープウェイを使用した。しかし、車内の揺れが気になった上に、ロープウェイが高いところを動いていた為、そこに広がる筆舌に尽くしがたいであろう自然の美しさが、記憶に残っていない。とはいえた、無事に目的地の大涌谷火山に到着し、も

くもくと湯気立つ火山の光景は自然が織りなす神秘といってよいほど感動した。また、母国タジキスタンにはこうした観光地として開かれた火山がなく、自分にとっては新鮮な光景でもあり、自然の無限の可能性のようなものさえ感じた。そしてさらに、今回話のタネに黒い色をした名物ゆで卵「黒たま」を食べてみた。外觀からは予想できないほどに美味であり、舌鼓を打った。何と不思議な食べ物であろう。

こうして、大涌谷火山を後にし(やはり帰りも苦手なロープウェイを使用した)、昼以降は芦ノ湖周遊や海賊船(大型船)に乗るなど、ゆったりとした時間を過ごした。都会的な生活に疲れていた身と心に水を入れることができ、非常に満足のいく午後であった。ただ、時間の都合上、夕方までは観光が出来ず、惜しくも東京に戻らねばならなかつた。

本稿では印象的であった大涌谷火山を中心に旅行の報告でしたが、箱根にはまだまだ多くの見所があり、消化不良の感が残る旅行であった。「時間を際限なく組めれば」と、帰りの電車で悔やんだのは記憶に新しい。とはいえ、大涌谷火山を始めとする今回の旅の思い出は忘がたいほどに良いものであり、箱根への旅行は「今後の楽しみ」ともなっている。

以上

